

そほう
組報

多摩

No.3

組報 多摩組 No.3
 発行日 2003年11月10日
 浄土真宗本願寺派
 東京教区 多摩組
 事務所/長専寺内
 東京都調布市富士見町1-35-4
 〒182-033 5 0424-82-3411
<http://plaza21.mbn.or.jp/~tamaso/>



浄土真宗本願寺派第24代
大谷光真門主

- p 1 ご門主のご著作発行
- p 2 京都 大谷本廟
- p 3 法話 五十嵐大策
- p 4 サマーキャンプと
連続研修会(連研)
- p 5 九州かくれ念仏
- p 6 住職に聞きました
(お寺を訪ねて)
- p 7 なぜなに Q & A
- p 8 寺院所在地
定例法座案内

『朝には紅顔ありて』
 大谷光真ご門主の著書「朝には紅顔ありて」がベストセラーになりました。角川書店より発行され、一般の本屋さん店頭で手に入れることができます。
 あとがきに、
 『あわただしく過ぎてゆく日々、あるいは、何か物足りなく過ぎてゆく日々を振り返り、生きる意味や喜びを見いだして下さるきっかけになれば・・・』とあり、混迷の時代といわれる現代社会を生きぬく確かな力が、やさしい言葉で著されています。
 是非、ご一読ください。

大谷本廟（おおたにほんびょう）

大谷本廟の沿革

大谷本廟は宗祖親鸞聖人のご廟所（墓所）であり祖廟とも呼ばれています。

親鸞聖人は、弘長二（一一六二）年十一月二十八日、弟の尋有僧都（じんうそうづ）の住坊「善法坊」（現在の角坊別院）において九十歳で往生になり、鳥辺山南辺（現在の本廟の「御茶毘所」）で火葬、ご遺骨は鳥辺野（とりべの）北辺の「大谷」に納められました。

その後、親鸞聖人の末娘である覚信尼（かくしんに）さまが諸国の門弟の協力を得て、ご遺骨を吉水の北辺（現在の知恩院山門北側の「崇泰院（そうたいいん）」付近）に改葬し、お堂を建てご影像を安置されました。

このご廟は「大谷影堂」とも呼ばれ、後に「大谷本願寺」となり、第八代蓮如宗主時代の「寛正の法難」（一四六五年）まで、およそ二百年間、諸国の門弟や同行によつて護持されてきました。

以後、第十二代准如宗主時代の慶長八（一六〇三）年、徳川幕府の政策によつて五条坂の現在地に移転し、この地を「大谷」と呼ぶようになりました。

明著堂（めいちやうどう）

親鸞聖人のご遺骨をお納めしてある祖壇は、移転当初は現在の北谷墓地の場所でありましたが、第十三代良如宗主時代の寛文元年（一六六一）、南の現在の地点に移築さ

れました。第十四代寂如宗主は、元禄七年（一六九四）、そこに方一間半の宝形造りの廟堂を建て、さらに宝永六年（一七〇九）、祖壇の前に、内部に柱のない東西五間、南北十間の拜堂を造営されました。

これが「明著堂」で、正面の額は寂如宗主の御筆であります。慶応の火災にも幸い類焼を免れ、大谷の古い面影をいまに伝えていきます。

仏殿

仏殿は第十三代良如宗主の時代、寛文元年（一六六一）三月に創建されましたが、慶応三年（一八六七）三月、すぐ横の二天門からの出火で、多くの堂舎と共に消失しました。

現在の仏殿は、明治三年（一八七〇）十一月に再建されたもので、内陣には寂如（じゃくによ）宗主御作の御本尊阿弥陀如来像を中心に、顕如宗主以降の歴代門主、左余間には七高僧・聖徳太子、右余間には本廟の創建者覚信尼さまの御絵像が奉懸されています。「龍谷山」の額は、寂如宗主の御筆であります。

ラジオ法話「こころの電話」
～西本願寺の時間～
静岡放送
1404KHz・1557KHz・
1062KHz
毎週土曜日 午前5時30分から

～築地本願寺の時間～
文化放送 1134KHz
毎週日曜日 午前5時15分から

テレホン法話
「こころの電話」
～電話で聞こう3分間法話～
電話（03）3541-0282

大谷本廟の法要・行事

法要行事の詳細については、大谷本廟にお問い合わせください。

〒605-0846

京都市東山区五条橋東6丁目514

大谷本廟（本廟局）

電話 075-531-4171

FAX 075-531-2072

春季彼岸会	3月17日(18日) ～23日(24日)
大谷本廟総追悼法要	4月17日・18日
覚信尼さまご祥月法要	5月11日・12日
大谷本廟納骨・永代経法要	6月25日～28日
朝の法座	8月6日～10日
盂蘭盆会	8月14日・15日
秋季彼岸会	9月20日～26日
龍谷会（大谷本廟報恩講）	10月15日・16日

お骨の一部をご開山親鸞聖人の御廟に分骨することができます。（祖壇納骨）
詳細は、各ご寺院にお尋ねください。

親鸞聖人のお手紙から教えていただいたこと

本願寺派司教
玄忠寺住職

五十嵐大策

私達の宗祖親鸞聖人は関東に約二十年ほど滞在なされて、多くの人々に御教化なされたのであります。今日、四十三通の手紙が知られておりますが、昔は九十二通ほどの手紙があったと文献に書いてあります。

宗祖の手紙のほとんどは、京都におられた親鸞聖人が関東にいた門弟の質問に解答なされたものであります。現存しておりますもので、一番早いものが七十九歳の書簡であります。この中に『信心の定まるとき往生また定まるなり』の言葉があります。あとの四十二通の手紙は八十歳をこえたものであります。九十歳で御往生なされる直前にお書きになったものと推察されるものも二痛あります。手紙全体を通して言えますことは、信心為本（しんじんいほん）ということと現生正定聚（げんしょうじょうじゅうじゅ）と

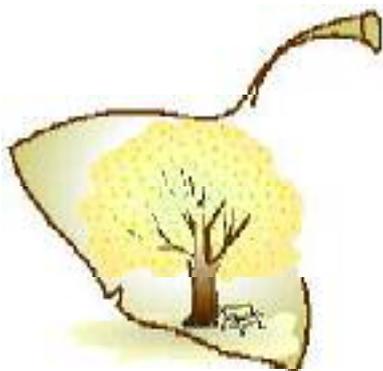
いうことが強調なされてあります。信心為本は、浄土真宗の特色である信心正因ということであり、正因としての信心が大切でありますよ」というおさとしであります。現生正定聚は、「本当の幸せ本当の喜びの念仏者にさせて頂きなさいよ」というおさとしであります。つまりは、「真の仏弟子にさせていただきなさいよ」という教えであります。

親鸞聖人の御教化によって、性信房や真仏房や浄信房や覚信房や専信房や真浄房等の門弟の心にもしびがついて、信心の定まるとき往生また定まるの心となり、また世の中安穩なれ、仏法ひろまれの心となつて、それぞれが浄土真宗を大きく広く高く深くひろめていったのであります。誠に有り難く尊いこととあります。

ただ宗祖の手紙といえますと、善鸞様

のことがよく言われますが、善鸞関係の手紙には一切現生正定聚の教示が全くありませんので、今日では世俗的な争いの中での問題として考えていったほうがよいと史学者は指摘しております。

いずれにしましても、手紙の中の中心は「信心の定まるとき往生また定まる」の心になるといふことであり、「世の中安穩なれ、仏法ひろまれ」の心になつて、仏法を味わい浄土真宗を味わつて、自分のできる範囲内で大いに努力実践させていただきたいものであると思つてあります。



多摩組の活動

多摩組サマーキャンプinあいかわ



宮ヶ瀬ダムにて記念撮影

本年も恒例のサマーキャンプが、神奈川県の愛川ふれあいの村をメイン会場に開催されました。
参加の小学生は五十四名、スタッフ三十六名の合計九十名という多摩組独自で開催するようになって最大の規模での開催となりました。

まず、調布市仙川の明西寺に集合後、本



はじめて体験するディスクゴルフ

堂でオリエンテーションと開村式を行い、「愛川ふれあいの村」へバスで出発。
到着後、早速昼食のバーベキュー。午後は、キャンプファイヤーの出し物を決めたり、フリスビーを使ったディスクゴルフで班ごと点数を競い合いました。
夕食後は、大きなキャンプファイヤー。はるか遠くから火の玉が飛んできて、ファイヤーに火がともり、みんなで歌ったり踊ったり。
泊まったロッジにクーラーはなく、この日は、今思えば今年の夏としては珍しく暑く、かなり寝苦しい一夜になってしまいました。

次の日、朝のお勤めをし、森の中を散策の後、近くの服部牧場へ移動しました。
ここで、牛の乳搾り体験をさせてもら



乳搾り前の服部牧場
しばらく山羊とたわむれる

い、牛乳をつくる（集める？）ことの大変さを知ったようでした。
そこから、宮ヶ瀬ダムへ移動し、お弁当の後、ダムの探検。ダムの大きさ、水の大切さを知りました。
バスで明西寺へ帰り、閉村式。修了証やお土産を受け取り解散となりました。
今年は、二度目三度目の参加者も増え、はじめは不慣れなお勤めも、帰るころには上手にできるようになっていました。
大自然とふれあう中で、自らのいのちのあり方や仏事にふれることなどを学ぶ目的で開催されているこのサマーキャンプ。来年も開催致しますので、今の内に来年の予定に組み入れて頂きたいと思います。

多摩組連研九州の旅

念仏はいのちなり

松村豊松（明西寺門徒）

多摩組の今回の旅行研修は、薩摩のかくれ念仏と鹿児島別院・知覧特攻平和会館を見学研修する二泊三日の旅程でした。

平成十五年五月二十七日（火）、伊東多摩組組長をはじめ、多摩組内十ヶ寺六十七名のお念仏で結ばれている皆様との旅行研修でした。

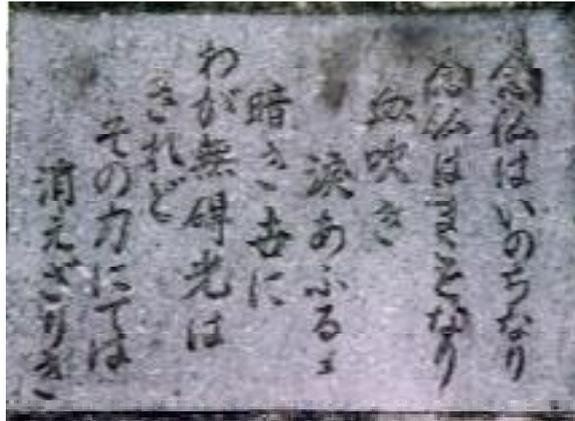
羽田から一時間半で宮崎着と快適な空の旅から、早速二台のバスで出発です。

最初の研修場所、安楽寺（宮崎県北諸郡山之口町富里）を訪問。住職からスライドつきでこの地方のかくれ念仏について聴聞した。安楽寺は、当初佐々木深道師が、念仏禁制を強いている島津藩諸郡内の隣接地清武村にお寺を開いた。禁制地の集落から、念仏者弾圧のため理不尽な拷問処刑から逃れてくる門徒難民達を保護する一方、禁制集落の念仏講開座に布教して回った。開座して見つければ捕縛され処刑される、文字通り決死の地下伝道活動でした。

その拷問は、住民たちの見せしめで行うから悪逆無道な残虐ぶり、斬首・磔・火あぶりの極刑から、火責め・水責め・石・

吊りなどの拷問責めで、慶長二年から明治九年までの三百年間念仏者たちの殉死と拷問の弾圧が続けられた。

安楽寺のほど近くにある田島かくれ念仏洞に行った。昭和五十九年組巡教で即如門主様が、この洞にみえられてお言葉を述べられた。洞は出入り禁止で中へ入れなかつたが、洞穴の奥は十数名ほど収容できる広さで、当時洞は近辺で十数力所あり、それぞれ講を設けていた。



田島かくれ念仏碑が、洞の前に建立してあった。

念仏はいのちなり

念仏はまことなり

血吹き 涙あふるる

暗き世に わが无碍光は

されど その力にては

消えざりき

小雨そぼ降る碑前で、しばし胸をうたれて、厳肅な気持ちで幾度となく碑文を目で追った。

間引きした嬰兒を投棄した哀話が残る文殊の池を見学し、ホテル霧島キャッスルへ宿泊。

翌日は、本願寺鹿児島別院を訪問し、輪番から別院の沿革を聴聞した。別院の住職から、薩摩地方のかくれ念仏のお話につきずに出てきて、禁制下のご門徒たちの苦難がしのばれ、頭が下がる思いだった。

二泊目は、指宿温泉いわさきホテルで、砂風呂を楽しみ、翌日、知覧特攻平和会館へ行った。

知覧は、昭和十七年大刀洗陸軍飛行学校知覧分教所として開校し、少年飛行兵、学徒出陣特別操縦見習士官らが操縦訓練を重ね、昭和二十年沖繩戦に参加。敵艦めがけてつぎつぎに飛び立ち散華して逝った千三十六柱の遺影遺品、書簡や記録など貴重な資料が会館に収集保存し展示してあり、係員の当時の状況説明を聞きながら、泣けて泣けてどうしようもなかった。特攻平和観音堂前で、参加者一同で讚仏偈を唱和した。

歎異抄に「悪をもおそるべからず、弥陀の本願をさまたぐるほどの悪なきゆえに」という文意は、かくれ念仏を旅して真実であると思った。



田島念仏洞

住職に聞きました

お寺を訪ねて

覚證寺（調布市富士見町）

中央高速の調布インターの近くにお寺が三軒あります。そのうち二つが本願寺派。覚證寺と長専寺です。今回は覚證寺を訪ねてきました。

覚證寺の創建は約四百年前。多摩組の多くの寺院と同じように、大正十二年の関東大震災による消失まで築地本願寺の門前に



覚證寺御本堂

寺基をかまえていましたが、その後昭和四一年に調布の飛田給に移転再建されました。さらに戦時中の昭和十九年、陸軍調布飛行場の拡張により強制的に現在地に移転させられたそうです。



ご住職とご家族

住職一家は七才と四才の男の子に、一昨年には待望の女の子を授かり、坊守共々二男一女の子育て大奮闘中です。住職が就任されたのは平成四年。就任後はご門徒の要望に応え、築七十年以上になる老朽化した本堂庫裡を建てかえるべく、まず平成七年に墓地の整備に着手、つぎに本堂の建設にかかり平成十三年に竣工されました。数年後には庫裡の建てかえも予定されています。

ご門徒は築地周辺から首都圏各地に散らばった方々と、調布近在の方々とで構成されます。毎月の定例法座で聞法に励んでおられます。二ヶ月に一回は法座の前にご門徒が集まり、新築の本堂を皆で清掃しているとのこと、今回はその清掃の日に取材をしました。皆さん熱心に真新しい本堂の柱や廊下をみがいておられました。掃除が終

わると手作りの昼食を皆でいただき、食後は本堂で読書をしたり、広縁に腰かけながら法談を交わしたりと、法座が始まるまでの時間を各々自由にゆったりと過ごされていたのが印象的でした。

本堂地下に造られたホールには、ご門徒の漫画家・水木しげる様から新築の記念に寄贈された「二河白道図」が飾られています。おなじみのゲゲの鬼太郎、ネズミ男などが登場する楽しい仏画です。ぜひ一度はご覧あれ。

（西川・大久保・石岡）



水木しげる作「二河白道図」

なぜ？なに？

Q&A

お仏壇のお荘厳の仕方は？

浄土真宗のお仏壇は、文字通り、ご本尊である阿弥陀如来を中心に、この私が、強く、明るく人生を生き抜かせていただく、いのちの依りどころです。

お仏壇のお荘厳は、「この私を「必ず救う」と誓って下さっている阿弥陀如来のご恩をよるごこび、どこまでも報恩感謝の気持ちでさせていただきましょう。」

まず、お仏壇の上段中央に、ご本尊・阿弥陀如来の絵像か木像、または「南無阿弥陀仏」の六字名号を安置し、右側に親鸞聖人（または十字名号「歸命尽十方無碍光如来」）、左側に蓮如上人（または九字名号「南無不可思議光如来」）の絵像を安置します。尚、ご本尊・両脇は、ご本山からいただきますでしょう。詳しいことは所属寺の住職にご相談下さい。

浄土真宗では本来、位牌を用いる習慣はありません。過去帳を用い、故人の法名などを記載します。また、過去帳は上段や中央ではなく、中段もしくは下段の脇に安置します。くれぐれも「位牌壇」にならないように注意したいものです。

日常のお荘厳としては、手前にある前卓に、左から花瓶・香炉・ろうそく立を置き

ます。これを三具足（みつぐそく）といいます。お盆やお彼岸、報恩講、新年、法要などあらたまつた場合には、花瓶・ろうそく立を一對にします（お仏壇の大きさにもよります）。これを五具足（ごぐそく）といいます。

上卓がある場合には、華瓶（密などの青木をさします）一對・火舎・ろうそく立を置きます。これを四具足（しぐそく）とい

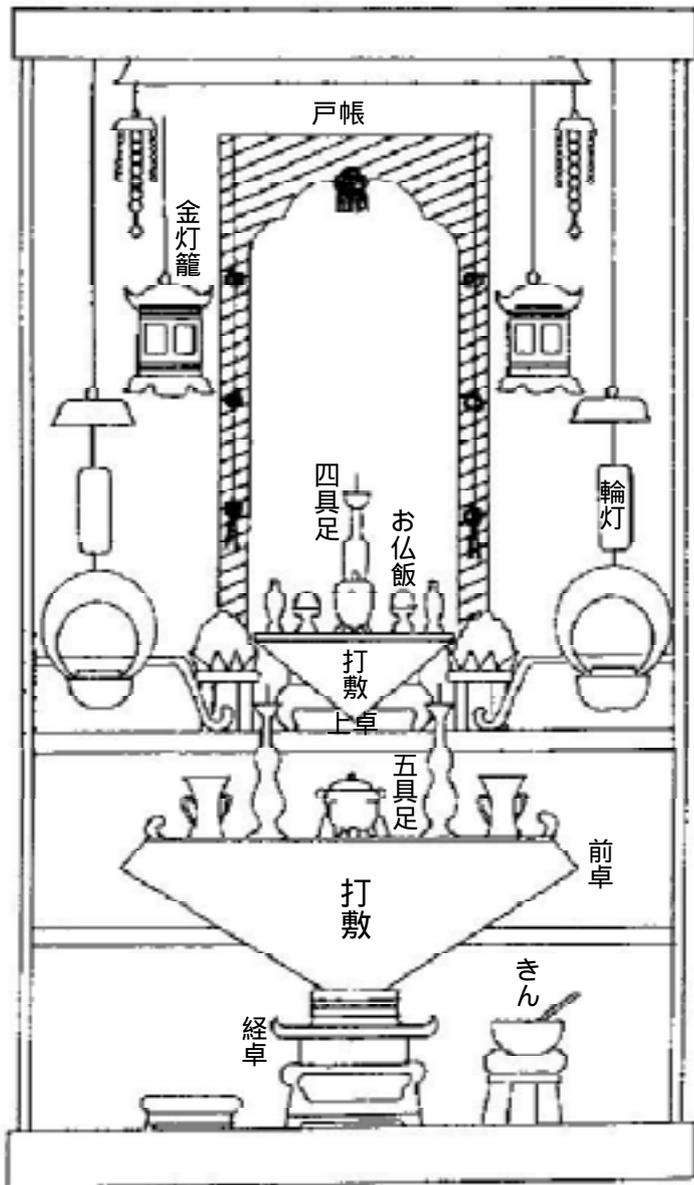
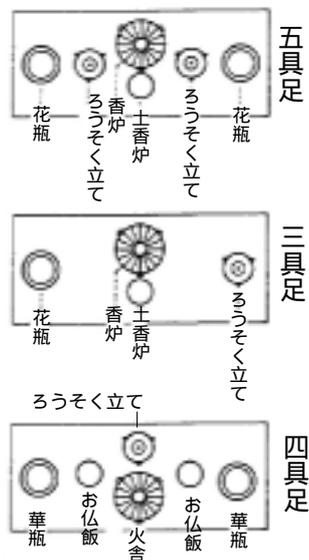
います。また、前卓・上卓には、お盆やお彼岸、法要などのあらたまつた時には打敷（うちしき）という三角形の布をかけます。

ご本尊・両脇の前には、朝炊けたご飯をお飯器に盛ってお供えします。お仏飯はお

昼前には下げ、お茶碗に入れていただきます。しよう。

また、お供え物には果物やお菓子などをお供えします。魚や肉類、お酒、お茶、お水などはお供えしません。

なお、お仏壇の大きさや形態などの事もありますので、ご住職がお伺いした時に遠慮なくお尋ねください。



西本願寺(京都・本山)

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町

電話 075(371)5181

FAX 075(351)1211

本願寺築地別院(築地本願寺)・東京教区教務所

〒104-8435 東京都中央区築地3丁目1番1号

築地別院電話 03(3541)1131

教務所電話 03(3541)1666

東京教区多摩組寺院所在地

調布市

光徳寺(こうとくじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-38-27
03(3300)6431 FAX03(5384)3344

明西寺(みょうさいじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-43-5
03(3300)1901 FAX03(3300)2681

延浄寺(えんじょうじ) 〒182-0006
調布市西つつじが丘2-30-1
03(3326)7337 FAX03(3326)5037

長専寺(ちょうせんじ) 〒182-0033
調布市富士見町1-35-4
0424(82)3411 FAX0424(98)1105

西照寺(さいしょうじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-39
03(3300)7734 FAX03(3300)7794

光西寺(こうさいじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-44-2
03(3300)5054 FAX 同左

光源寺(こうげんじ) 〒182-0006
調布市西つつじが丘2-30-11
03(3300)0881 FAX03(3308)6289

覺證寺(かくしょうじ) 〒182-0033
調布市富士見町1-35-4
0424(82)5556 FAX0424(80)0166

正善寺(しょうぜんじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-42-5
03(3300)6064 FAX03(3300)6687

安養寺(あんようじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-44-5
03(3307)5605 FAX03(3307)5496

圓福寺(えんぷくじ) 〒182-0022
調布市国領町1-10-11
0424(82)7955 FAX0424(81)4734

国立市

應善寺(おうぜんじ) 〒186-0002
国立市東2-2-1
042(572)0043 FAX042(572)0148

立川市

光西寺(こうさいじ) 〒190-0021
立川市羽衣町3-20-16
042(522)3413 FAX042(524)7788

小平市

照恩寺(しょうおんじ) 〒187-0041
小平市美園町3-23-20
042(341)2935 FAX 042(347)4122

青梅市

浄弘寺(じょうこうじ) 〒198-0036
青梅市河辺町8-19-8
0428(32)1769 FAX0428(32)2010

八王子市

専念寺(せんねんじ) 〒192-0063
八王子市元横山町2-14-24
0426(44)3491 FAX0426(48)6087

誓願寺(せいがんじ) 〒193-0816
八王子市大楽寺町209-5
0426(51)0073 FAX0426(51)6183

光照寺(こうしょうじ) 〒192-0912
八王子市絹ヶ丘3-8-1
0426(35)3754 FAX 同左

本光寺(ほんこうじ) 〒193-0832
八王子市散田町4-40-10
0426(64)2196 FAX0426(63)2501

延立寺(えんりゅうじ) 〒193-0802
八王子市犬目町681
0426(54)2429 FAX0426(54)6930

大恩寺(だいおんじ) 〒193-0943
八王子市寺田町1085
0426(68)0889 FAX0426(68)1825

町田市

圓成寺(えんじょうじ) 〒194-0004
町田市鶴間1210
042(795)0181 FAX042(799)5130

圓成寺出張所(えんじょうじ) 〒194-0035
町田市忠生3-24-13
042(792)3007

町田布教所(まちだふきょうしょ) 〒195-0063
町田市野津田町2534-20
042(737)3236 FAX 同左

多摩市

阿弥陀寺(あみだじ) 〒206-0013
多摩市桜ヶ丘1-24-2
0423(75)8055 FAX0423(37)4889

稲城市

玄忠寺(げんちゅうじ) 〒206-0822
稲城市坂浜878-6
0423(31)3655 FAX0423(31)3511

♣ 定例法座予定 ♣ (必ず電話にて日時をご確認の上、お出かけ下さい。)

安養寺 第1日曜
西照寺 毎月8日・第4土曜(親鸞会)
正善寺 第1日曜(1日なら8日)
専念寺 隔月1回
延浄寺 毎月29日・第2土曜(門信徒会)
光西寺(立川市) 毎週金曜晩・各種仏教講座
応善寺 毎月1日・16日
圓成寺 毎月28日
圓成寺出張所 毎月10日(休日なら翌日)
照恩寺 毎月13日・第1土曜・第4日曜
大恩寺 第2土曜・第4日曜・第1土曜(婦人会)

誓願寺 毎月4日・第3日曜
浄弘寺 第3土曜
玄忠寺 第3日曜
延立寺 第3土曜・第1火曜(婦人会)
明西寺 毎月10日前後予定(婦人会)
4月・8月・1月(壮年会)
覺證寺 第1土曜
光源寺 隔月奇数月
阿弥陀寺 年3回・毎月28日(明宝会)
本光寺 不定期(お問い合わせ下さい)
町田布教所 第2土曜 (順不同)